

2017年1月12日

2017年 イビデン株式会社 賀詞交換会

2017年1月12日午前11時30分より、イビデン株式会社(本社:岐阜県大垣市、代表取締役社長:竹中裕紀)は、お取引先様 およそ 350 名にご出席いただき、2017年の賀詞交換会を大垣フォーラムホテル(大垣市万石)において開催いたしました。

◆竹中社長挨拶(要約)

昨年、世界では、英国のEU離脱、米国大統領選のトランプ候補の勝利など、さまざまなことが起こりました。これまで世界はグローバル化の流れの中にいましたが、そのひずみの中で保護主義への回帰現象が始まっているように感じます。今月20日のトランプ大統領の就任以降、どのような政策が打ち出されるのか世界が固唾をのんで見守っていますが、当社も為替の動向や、メキシコに工場があるため、北米の自由貿易協定NAFTAの動向などに注目しております。

当社においては、昨年は非常に厳しい一年となりました。FO-WLPという新しい技術の出現による当社CSP事業への影響に加えて、スマートフォン用マザーボードの不振により、電子部門の受注が落ち込み、やむを得ず休止設備の減損処理を行いました。しかし現在は、CSP部門がFO-WLPに対抗する機種を開発したことに加えて、海外生産拠点における品質・生産性の改善が着実に進んでおります。このまま順調に活動を進めることで、昨年減損した休止設備も、今年はかなり再稼働ができる見通しです。

今日、電子市場では、パソコンやスマートフォンの需要は頭打ちですが、IoTや自動車のコネクティッド、またそれら処理するためのデータセンターが急速に伸び始めています。それに併せた基板のトレンドとして、配線のファイン化と基板の薄型化が極限まで進みます。今年は当社も既存プロセスの限界に挑戦し、最先端領域で業界をリードしていきます。

セラミック部門では、ここ数年はAFP以外の収益が低迷しておりました。しかし、主力のDPFがメキシコ工場の立ち上げを終了し、また、SCRとFGMも新材料・新プロセスの開発を進めましたので、今後はこれらの事業も主力として活躍していきます。

国内グループ会社を手掛ける事業につきましては、昨年紹介したイビケン抗ウイルスメラミン化粧板とイビデン物産の機能性食品に続き、各社とも独自の強みに注力してまいります。

今年も世界の政治・経済情勢は大変不透明ですが、当社は事業の競争力強化とリスクマネジメントを確実に進める中で、業績の回復につなげてまいります。

皆様方には、今年も引き続き、ご指導とご鞭撻をお願いし、年頭のご挨拶とさせていただきます。

以上